

## 杉浦非水の雑誌表紙

—東京国立近代美術館所蔵の杉浦非水資料(2)

木田拓也

### 東京国立近代美術館の雑誌表紙について

東京国立近代美術館は、杉浦非水(1876～1965)の作品を多数収蔵している。これにはポスター48点のほか、雑誌表紙、装幀本、絵はがき、デザイン原画、模本類、デッサンなどを含み、総点数は724点を数える。このうち、主要な作品については2000年(平成12)5月に東京国立近代美術館フィルムセンターの展示室において開催された『杉浦非水展：都市生活のデザイナー』(2000年5月30日～7月29日)のカタログで確認することができる。しかし、このカタログには、当館所蔵の全資料が掲載されているわけではない。また、所蔵品目録『東京国立近代美術館所蔵品目録 デザイン』(2003年)では、雑誌表紙や装幀本については、個々のタイトルや図版については掲載されていない。そのため、これまで、杉浦非水の雑誌表紙について確認するには、いささか不便な面があった。

近年では、杉浦非水のポスターに限らず、雑誌表紙についても貸し出し要請が少しずつ増えてきており、数年前から、杉浦非水の雑誌表紙等の整理作業をすすめてきた。杉浦非水が手がけた雑誌表紙のうち、当館が所蔵する三越のPR雑誌、すなわち、『みつこしタイムス』、『三越』、『大阪の三越』の三誌については、すでに作品データと図版を整理し、「杉浦非水と三越—東京国立近代美術館所蔵の三越PR誌の表紙」(『東京国立近代美術館研究紀要』第10号、2005年12月)としてまとめたので、本稿では、それ以外の「雑誌等表紙・広告類」について掲載することにした。ただし、当館で「雑誌等表紙・広告類」として整理している作品には、雑誌以外にも、電話帳、教科書、旅行案内の表紙など、さまざまなタイプの資料が含まれているのだが、ここでは割愛し、月刊誌、あるいは季刊誌として定期的に刊行されていた雑誌、295点分の作品データを収録することにした。なお、図版については、『杉浦非水展：都市生活のデザイナー』(2000年)カタログに掲載されている分については割愛し(同展のカタログに掲載されている作品については、目録データの末尾に、2000年の杉浦非水展のカタログの作品No.(例えば「→b.8-1」)を記載したので、参照していただきたい)、同展のカタログに掲載されていない表紙の画像についてのみ、白黒図版を掲載した。

杉浦非水の作品としては、やはり、三越のポスターや、地下鉄のポスターが目ざれるし、杉浦非水の真骨頂といえる。だが、東京国立近代美術館が所蔵する杉浦非水作品からもうかがえるように、杉浦非水が図案家として取り組んだ仕事は、ポスター以外にも、雑誌表

紙、本の装幀、絵はがき、広告、図案集など多岐にわたっている。とりわけ雑誌表紙の仕事というのは、おそらく杉浦非水にとって、生涯を貫いて取り組み続けた重要なひとつの柱といえる仕事だったのではないかと思われる。というのも、当館が所蔵する雑誌表紙だけを見ても、杉浦非水が図案家として活動をはじめた1900年代初頭のものから戦後、1950年代のものまで、およそ、杉浦非水が図案家として活動していた大部分の時代をカバーしており、しかも作品点数も多く、おそらく図案家杉浦非水にとって、日常的な仕事として常に頭の中にあっただけの、雑誌表紙の仕事だったのではないかと推察できるからである。もっとも、当館が所蔵する雑誌表紙だけで杉浦非水の仕事の全体像をとらえることはできない。震災や戦災等の被害を受け、明治、大正、昭和初期の多くの資料が失われてしまっていることから察すれば、杉浦非水は、当館が所蔵する以外にも、ひじょうにたくさんの雑誌表紙の仕事を手がけていたものと思われる。この目録を足がかりとして、その前後左右を調査していけば、当館が所蔵するもの以外にも、たくさんの杉浦非水の雑誌表紙を見つけ出すことができるだろうし、やがて、杉浦非水の仕事の全体像が浮かび上がってくるものと思われる。

ところで、当館が所蔵している雑誌表紙については、その大部分が表紙のみの状態、つまり、ペラの状態になっており(まれに、目次を伴っているものもある)、雑誌の中身そのものはない。奥付もないため、発行所や編集人について、きちんと確認するのが難しいのが現状である。そのため、本目録に記載されている出版者等のデータについては、さまざまな図書館が公開しているOPACのデータに基づいて記載したものが多く含まれている。

それぞれの雑誌の概要を把握し、その雑誌に関わっていた人物と杉浦非水との関係を読み解いていけば、杉浦非水の人的交流や図案家としての位置が浮かび上がってくるものと考えられ、今回、それぞれの雑誌の概要の把握に努めたが、明治、大正、昭和戦前期の雑誌について調査するというのが、きわめて難しい作業であることを思い知らされた。有力な出版社が発行していた雑誌や文芸関係の雑誌についてはさまざまな参考資料が出版されており、その概要を把握することができるのだが、本目録に収録した雑誌のなかには、おそらく一般にはほとんど流通しなかったのではないかと思われる機関誌や同人誌のような性格の雑誌もいくつか含まれている。機関誌を発行していた団体で、法人として現在も存続している団体に関しては、そのホームページに記載されている沿革などから、その発行団体の概要を知ることができたものの、機関誌的な雑誌のなかには、その概要を把握することができないものもあった。当館には雑誌の中身は残されていないため、参考資料がない雑誌については、現物をあたるよりほかないのだが、現物にあたって調べるにしても、所蔵している図書館は日本各地に分散しており、今回は全てについて調査することはできなかった。なかには、所蔵している図書館を見つけ出すことすらできないものもいくつかあった。

## アフイッシュ

1927年(昭和2)7月、杉浦非水が主宰する七人社のポスター研究雑誌として創刊され

た。創刊号の奥付によれば、発行兼編集人は岸秀雄、発行所は七人社。七人社の結成は1926年(大正15)で、同年4月に三越本店において、七人社第一回ポスター展を開催している。創刊号の巻末には、顧問として、杉浦非水、松宮三郎(三越呉服店広告部長)、渡辺素舟(工芸批評家)の三名、そして、同人として、新井泉、原万助、神谷駒雄、岸秀雄、小池巖、久保吉朗、三好唯夫、野村昇、須山浩、筒井定夫の十名の名前が記されている。『アフィッシュ』は全部で14号刊行されたが、当館が所蔵するのは、そのうちの9冊のみである。ただしこの中には、表紙だけのものも含まれており、当館が完本として所蔵するのは、7冊だけである。当館が所蔵するものを見ると、第1年第1号(1927年7月)から第1年第4号(1927年10月)までは、版型も大きく、カラー印刷の豪華な表紙が付いている。その後2年間発行が途絶えていたが、1929年10月(第2年第1号)に再刊され、1930年10月(第3年第7号)まで発行が確認されている。「アフィッシュ」とは、フランス語でポスターの意。第1年第4号までは、表紙に「ポスター研究雑誌」と記されているが、第2年第3号には「図案研究雑誌」と記されている。

#### アマチュア

1922年(大正11)7月創刊の写真雑誌。金星堂。写真論、撮影術、投稿写真の批評を掲載。

#### 家の光

産業組合法公布25周年事業の一つとして、産業組合中央会から1925年(大正14)5月に創刊された家庭雑誌。月刊。産業組合中央会とは、現在のJA(農業協同組合)の前身。創刊当時、世界恐慌のあおりを受け、経済的にも社会的にも惨憺たる状況にあった農民に、娯楽と教養を提供する家庭雑誌として創刊された。編集の三大基本方針として「①一家一冊万能雑誌、②万人にわかる雑誌、③農村のための雑誌」を掲げ、とくにわかりやすい誌面づくりを心がけた。また、娯楽的な読み物の連載が好評で、2万部からスタートしたが、10年足らずで100万部を突破し、1944年1月には、戦前期における雑誌の最高発行部数153万5千部を記録している。なお、『家の光』の発行者は、農業団体の統合により、1943年(昭和18)中央農業会に移り、翌1944年(昭和19)には全国農業会家の光協会となる。『家の光』は現在も継続中で、家の光協会から刊行されている。

#### 温泉

日本温泉協会発行の月刊誌。創刊は1930年(昭和5)4月。日本温泉協会は、温泉の研究、温泉知識の普及、温泉資源の保護、温泉利用施設の改善及び温泉利用の適正化をはかり、国民の健康の増進と観光資源の活用に寄与することを目的として、1929年(昭和4)12月に設立された温泉界統合同体。事務局は東京鉄道局旅客掛内においたが、その後、事務局を日本交通公社内に移した。現在も継続中。

## 科学知識

1921年(大正10)7月創刊。科学知識普及会の会誌。月刊。科学知識普及会は科学者相互の協力と科学知識の普及により国利民福を図ることを目的に設立され、1924年(大正13)6月、財団法人となった。『科学知識』のほか、『科学年鑑』の編纂、刊行を行う。1944年(昭和19)、日本科学協会と合併し財団法人日本科学協会と改称した。

## 劇と詩

1910年(明治43)10月創刊の文芸雑誌。月刊。編集兼発行人藪与太郎。劇と詩社発行。早稲田系の戯曲作家と自由詩社関係の詩人が中心となって創刊された。『劇と詩』は、1913年(大正2)8月、35号をもって終刊。1913年(大正2)9月からは、誌名を『創造』と改題。編集兼発行人は人見円吉(東明)となり、発行所は創造社となった。

## 現代

『國民雑誌』(1910年12月創刊、國民雑誌社)を改題して、1913年(大正2)3月(第4巻第3号)、現代社から発行された月刊誌。横山健堂(1871～1943)主筆。総合雑誌。

## 現代

1920年(大正9)10月創刊の月刊誌。大日本雄弁会、のち、大日本雄弁会講談社(現在の講談社)。時評や連載小説などの読み物を収録する総合雑誌。1946年(昭和21)2月終刊。なお、現在でも講談社からは、月刊誌『現代』(1966年1月創刊)と『週刊現代』(1959年4月12日創刊)が刊行されている。

## 現代之圖案工藝

『現代の図案』(1914年2月創刊、深田図案研究所)を改題して、1916年(大正5)7月1日(第26号)、現代の図案工芸社から刊行された。デザイン雑誌。月刊。その後、1923年(大正12)3月1日、第105号からは『図案と工芸』と改題し、1924年(大正13)10月、第121号まで刊行された<sup>(1)</sup>。復刻版がフジミ書房から出版されている。

## 三十六年

大阪で、1903年(明治36)に開催された第五回内国勸業博覧会の開催準備の進捗状況を報道する雑誌として、1902年(明治35)5月に創刊され、第10号(明治36年2月20日発行)まで刊行された雑誌。月刊。『三十六年』という誌名は、第五回内国勸業博覧会が開催される明治36年にちなんだものであろう。第10号の巻末には、『三十六年』についてはこれをもって廃刊とし、以後は、日刊新聞『博覧會』を刊行する旨の広告が掲載されている。『三十六年』の第1号表紙は、杉浦非水にとっては、雑誌表紙の第一作となる記念すべき作

品である。1901年(明治34)に東京美術学校を卒業した後、黒田清輝(1866～1924)の家に寄宿していた杉浦非水は、黒田清輝のすすめで、大阪の印刷所に就職する。大阪毎日新聞社の土屋元作(1866～1932)から黒田清輝に対して、新たに大阪で開業する印刷所のために図案家を紹介してほしいという依頼があったからであった。その印刷所とは、大阪の北浜で操業していた南光堂印刷所なのだが、1903年(明治36)に大阪で開催される内国勸業博覧会(3月～8月、天王寺公園)を当て込んで事業を拡大することになり、新たに図案部を設置することになったのである。その印刷所の採用試験というのが、雑誌『三十六年』の創刊号の表紙の図案の制作であった。杉浦非水は、黒田清輝の推薦状と履歴書とともに、『三十六年』の創刊号の表紙の図案を土屋元作に提出し、見事、就職試験に合格したのである。当館には『三十六年』の第1号(挿図1)と第5号(挿図2)の表紙がある。ところで第1号について、天理大学付属天理図書館に確認したところ、同館が所蔵する第1号の表紙には、号数と目次が記載されているとのご教示をいただいた<sup>(2)</sup>。そこで、早稲田大学図書館が所蔵する第5号(挿図3)についても実物にあたって確認したところ、やはり表紙には目次が印刷されていた。おそらく、当館が所蔵する『三十六年』の表紙は、校正刷の段階のものではないかと思われる。なお、ここには、杉浦非水が、「非水」と号する以前のサイン、ローマ字の「T」と「S」を円の中に縦に組み合わせたサインがみられることにも注目しておきたい。1876年(明治9)5月15日に愛媛県松山に生まれた杉浦非水の本名は、白石朝武<sup>つとむ</sup>だが、10歳の時に母方の杉浦家の養子となったため、杉浦朝武となった。「T」と「S」のサインは、おそらく、杉浦朝武のイニシャルを組み合わせてつくったものだろう。杉浦非水が「非水」という雅号を使用するようになったのは、東京中央新聞社に入った1905年(明治38)、29歳の頃からである<sup>(3)</sup>。1904年(明治37)島根県浜田の第二中学校の教師として赴任して

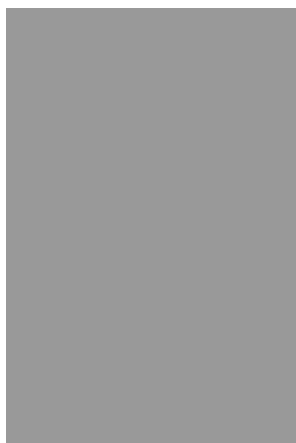


図1：杉浦非水『三十六年』第1号(1902年5月)表紙、東京国立近代美術館

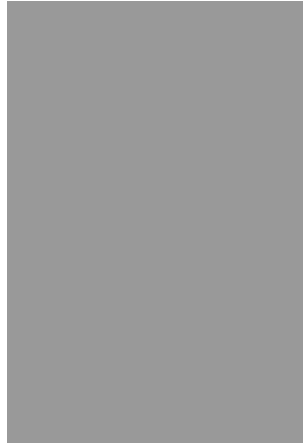


図2：杉浦非水『三十六年』第5号(1902年9月)表紙、東京国立近代美術館



図3：杉浦非水『三十六年』第5号(1902年9月)表紙、早稲田大学図書館。

いた杉浦非水は「翡翠郎」という俳号を持っていたが、「翡翠」という文字があまりにも複雑なため、その後、同じ音で最も簡単な字を選び、「非水」と号するようになったのである。

### 私學振興

1952年(昭和27)6月29日創刊の雑誌。隔月刊。私立学校振興会発行。私立学校振興会は、1952年(昭和27)3月、私立学校振興法とともに、私立学校の施設等の整備に必要な資金の貸付けおよび教職員の研修等に対して助成を行う団体として設立された。1970年(昭和45)7月には、日本私学振興財団となった。

### 自然

1919年(大正8)5月創刊の短歌雑誌。尾山篤二郎(1889～1963)主宰。発行所は自然詩社。その後休刊し、1923年(大正12)9月、名古屋から復刊するもやがて休刊、1926年(大正15)4月から、発行所を東京に移して再出発。その後も、休刊を繰り返し、1939年(昭和14)9月(第18巻第5号)をもって、『芸林』(1938年10月創刊)に併合。

### 實業俱樂部

1911年(明治44)1月創刊。月刊。博文館。1912年(大正元)12月終刊。

### 秀才文壇

1901年(明治34)10月創刊。月刊。文光堂。文芸投書雑誌。博文館出身の野口安治編集。1905年(明治38)1月からは、1日と15日の月二回発行となったが、後に月一回刊行となる。大正時代中頃、文光堂の経営不振のなか、わずかに刊行を維持していたが、関東大震災のため、1923年(大正12)8月をもって終刊。投書欄は、評論、小説、漢詩、俳句など幅広い。一党一派に偏することなく、時代の文学動向を反映し、文学愛好の青年を育成した。

### 女子文壇

1905年(明治38)1月創刊。月刊。女子文壇社。文芸投稿雑誌。編集兼発行者の野口竹次郎(1867～?)は、博文館出身だが、1905年独立し、女子文壇社を創立。第3巻第1号からは、河井醉茗(1874～1965)編集。河井醉茗の女子文壇社退社にともない、1913年(大正2)8月(第9巻第11号、132冊)で終刊。同年9月、女子文壇社からは、継続誌として『處女』が刊行された。

### 處女

1913年(大正2)9月、『女子文壇』の継続誌として刊行された。

### 新家庭

1916年(大正5)3月創刊。月刊。玄文社。婦人家庭雑誌。家政学、衛生、料理から、皇室や華族など上流婦人の話題や、当時の流行などを特集。また、文芸や文学に関する記事も含む。

### 新刊月報

1922年(大正11)5月創刊。東京出版協会から刊行された機関誌。1937年(昭和12)2月終刊。

### 新趣味

1922年(大正11)1月に創刊された探偵小説雑誌。月刊。博文館発行。『新文学』の後身。鈴木徳太郎編集。1923年(大正12)11月まで、全23冊刊行。とくに、海外の推理小説の翻訳を掲載した。博文館からは、同じく推理小説に力をいれた『新青年』が刊行されており、『新趣味』は『新青年』に引き継ぐことを宣言して1923年(大正12)11月に廃刊。

### 新人

1900年(明治33)7月に創刊された、月刊のキリスト教雑誌。1923年(大正12)8月まで。海老名弾正(1856～1937)主筆。新人社発行。霊的自覚を重んじ、倫理的人格主義的な日本的キリスト教を唱道し、自由主義的進歩的立場を示した。

### たかね

たかね婦人会発行の機関誌。年四回発行(1、4、7、10月)。なお、たかね婦人会の詳細は不明だが、その規約には、「本会は、婦人の自覚によってその向上をはかり、以て一般文化の進展に貢献せんことを期します」と記されている。

### 短歌至上主義

1933年(昭和8)11月、創刊。杉浦非水の妻、杉浦翠子(1885～1960)が主宰する藤浪会発行。1944年(昭和19)11月終刊。1947年(昭和22)7月、『短歌至上』と改題復刊。杉浦翠子は、埼玉県川越生まれ。本名岩崎<sup>みどり</sup>翠、次兄は、福沢桃介(1868～1938)。国語伝習所に学び1915年(大正4)北原白秋(1885～1942)に入門したが、翌年「アララギ」に転じ、斎藤茂吉(1882～1953)に師事。「アララギ」の女流として情感に富んだ歌を詠んだが、1923年(大正12)「アララギ」を退会。歌誌『短歌至上主義』を創刊した頃から、時代性、社会性に着目し、批判精神をもった主知的短歌を提唱した。

### 中學世界

1898年(明治31)9月創刊。博文館。博文館は、1887年(明治20)、大橋佐平(1835～

1901) によって創業された出版社。大橋佐平は、各種雑誌から論文を抜粋した『日本大家論集』を刊行して大成功をおさめた。出版事業の他にも、東京堂(現、トーハン)、共同印刷、内外通信社(現、博報堂)などの関連事業をおこし、当時、日本最大の出版社としての地位を築いた。博文館からは、『太陽』『少年世界』『少女世界』『新青年』など多彩な雑誌が出版されていた。しかし、終戦直後、アメリカの日本文化研究所からは、日本人の精神構造は、文部省制定の教科書と博文館の出版物によって形成されていた、と見なされたため、博文館は徹底的に解体された。現在は、博文館新社に引き継がれている。

## ツーリスト

1913年(大正2)6月創刊。ジャパン・ツーリスト・ビューロー発行。1913年(大正2)10月の第3号から英文欄を設置。当初隔月刊だったが、1928年(昭和3)1月からは月刊。表表紙には和文で『ツーリスト』と表記され、裏表紙には英文で『THE TOURIST』と表記されている。1941年(昭和16)6月、『Tourist and Travel News』と改題。ジャパン・ツーリスト・ビューロー(Japan Tourist Bureau)は1912年(明治45)3月、外国人観光客向けの旅行案内所として設立された。1927年(昭和2)社団法人となる。その後、東亜旅行社、東亜交通公社と改組、改称し、1945年(昭和20)財団法人日本交通公社(Japan Travel Bureau)となる。1963年(昭和48)11月、営利部門が(株)日本交通公社(現、〈株〉ジェイティービー)として分離され、財団法人日本交通公社は、観光文化振興のための調査研究、研修を行う非営利の調査研究機関として現在にいたる。

## 東京

1924年(大正13)9月創刊。月刊。実業之日本社。1927年(昭和2)1月(第4巻第1号)から、『ワールド』と改題。

## 婦人倶楽部

1920年(大正9)10月創刊の婦人雑誌。月刊。大日本雄弁会、のち、大日本雄弁会講談社、講談社発行。当初、婦人問題に関する論説に重点を置いていたが、やがて、生活実用誌としての色彩を濃くした。現在も継続中。

## 文章世界

1906年(明治39)3月創刊。月刊。博文館。文芸投稿雑誌。博文館館主(二代目)の大橋新太郎(1863～1944)が、当時の青年の浮華軽佻な風潮を憂い、実用的な文章を一般青年に書き習わせる目的で創刊。はじめは、作文研究を目的として、文章作法、文範、作文法などを掲載。初代編集兼発行名義人は田山花袋(～1913年3月まで)。文芸投書欄を通じて幅広い読者層を文学に参加させ、文学享受層の裾野を広げたが、とりわけ、自



然主義運動の支持層を厚くした。1921年(大正10)(第16巻第1号)から『新文學』と改題し、投稿欄を廃し、純文芸誌として立て直しをはかったが、同年12月廃刊。

### むれ星

東京中央電話局内の「むれ星会」発行の月刊誌。1928年(昭和3)11月創刊。同誌には、むれ星会役員として、東京中央電話局の局長、課長の名前が連ねられており、さらに、毎号冒頭には、東京中央電話局の「通達」と「局内彙報」が収録されていることから、これは東京中央電話局の職員のための社内報と思われる。

### 雄辯

1910年(明治43)2月創刊。月刊。当初、大日本図書株式会社発行(1911年11月から大日本雄弁会、1925年1月から大日本雄弁会講談社発行)、1941年(昭和16)10月、第32巻第10号で終刊し、『現代』と合併。政治家、教育家、法律家、実業家、文学者ら各界の演説速記や寄稿による弁論雑誌。現在の講談社の創設者野間清治(1878～1938)が刊行した。1917年(大正6)6月には紙面を刷新し、雄弁本位から総合雑誌に転換。野間清治は、講談を速記にとって掲載する『講談倶楽部』も刊行し、『雄辯』と『講談倶楽部』の二誌から、大日本雄弁会講談社という社名がうまれた。同社は、大正時代には、『少年倶楽部』『現代』『婦人倶楽部』『少女倶楽部』『キング』を次々に創刊して成功させ、“雑誌王国”を築き上げた。

### 註

- (1) 山崎啓子「『現代の図案』『現代の図案工芸』『図案と工芸』『圖案と工藝 別冊(解説・目次)』フジミ書房、2001年。
- (2) 天理大学付属天理図書館奉仕部西林氏による。
- (3) 杉浦非水「自傳六十年(一)」『広告界』、1935年。

### 参考文献

- 長谷川泉編『近代文学雑誌事典』至文堂、1966年。  
 日本書籍出版協会編『日本出版百年史年表』日本書籍出版協会、1968年。  
 日本近代文学館編『日本近代文学大事典』全6巻、講談社、1977～1978年。  
 鈴木徹造『出版人物事典：明治～平成 物故出版人』出版ニュース社、1996年。  
 塩澤実信『出版社大全』論創社、2003年。  
 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』<http://ja.wikipedia.org/>

## 目録

## 凡例

- この目録は、東京国立近代美術館が所蔵する杉浦非水の《雑誌表紙・広告類(498点)》のうち、三越関連の雑誌表紙(『みつこしタイムス』『三越』『大阪の三越』)を除く雑誌表紙のデータを記したものである。三越関連の分については、「杉浦非水と三越:東京国立近代美術館所蔵の三越PR誌の表紙」『東京国立近代美術館研究紀要』第10号、2005年12月を参照のこと。
- 作品データは、雑誌タイトルの50音順に配列し、作品no.、雑誌名、巻号、発行年月、出版者、寸法(たて×よこ、単位はcm。ただし、裏表紙もあるものについては、表紙の寸法を記し、備考欄に「裏表紙あり」と記載した)、備考(「」内は表紙のタイトル)、作品番号を記載した。なお、末尾に「→」で始まる番号、例えば「→b.8-1」と記されているものは、「杉浦非水展:都市生活のデザイナー」(東京国立近代美術館、2000年)図録に掲載されている作品なので、同展図録を参照されたい。なお、作品データのうち[ ]内のデータについては推定。

no.	雑誌名、巻号(発行年月)	出版者	寸法(cm)	備考	作品番号	図版番号
1	『アフィッシュ』第1年第1号(1927年7月)	七人社	31.0×23.0	完本	Gd0316-013	→b.8-1
2	『アフィッシュ』第1年第2号(1927年8月)	七人社	30.8×22.7		Gd0316-015	→b.8-2
3	『アフィッシュ』第1年第3号(1927年9月)	七人社	31.0×23.0	完本、「飛び魚」	Gd0316-016	→b.8-3
4	『アフィッシュ』第1年第4号(1927年10月)	七人社	31.0×23.2	完本、「収穫」	Gd0316-017	→b.8-4
5	『アフィッシュ』第2年第3号(1929年12月)	七人社	26.4×18.7	完本	Gd0316-019	→b.8-5
6	『アフィッシュ』第3年第1号(1930年1月)	七人社	26.4×18.7	完本	Gd0316-020	→b.8-6
7	『アフィッシュ』第3年第3号(1930年3月)	七人社	26.4×18.7		Gd0316-021	→b.8-7
8	『アフィッシュ』第3年第6号(1930年8月)	七人社	26.4×18.7	完本	Gd0316-022	→b.8-8
9	『アフィッシュ』第3年第7号(1930年10月)	七人社	26.4×18.7	完本	Gd0316-023	→b.8-9
10	『アマチュア』第1巻第2号(1922年8月)	金星堂	23.7×16.3		Gd0316-024	→b.9-1
11	『アマチュア』第1巻第3号(1922年9月)	金星堂	23.7×16.3		Gd0316-025	
12	『アマチュア』第1巻第4号[1922年10月]	金星堂	23.7×16.3		Gd0316-026	→b.9-2
13	『家の光』第1巻第8号(1925年12月)	産業組合中央会	22.3×14.9		Gd0316-027	→b.10-1
14	『家の光』第2巻第2号(1926年2月)	産業組合中央会	22.3×14.9		Gd0316-028	→b.10-2
15	『家の光』第2巻第7号(1926年7月)	産業組合中央会	22.0×14.8		Gd0316-029	
16	『家の光』第3巻第7号(1927年7月)	産業組合中央会	22.0×14.8	「緑蔭」	Gd0316-030	
17	『家の光』第4巻第2号(1928年2月)	産業組合中央会	22.0×14.8	「梅」	Gd0316-031	
18	『家の光』第4巻第3号(1928年3月)	産業組合中央会	22.0×14.8		Gd0316-032	
19	『家の光』第4巻第5号(1928年5月)	産業組合中央会	22.0×14.8	「薫風」	Gd0316-033	
20	『家の光』第4巻第7号(1928年7月)	産業組合中央会	22.0×14.8	「登山」	Gd0316-034	
21	『家の光』第4巻第9号(1928年9月)	産業組合中央会	22.0×14.8		Gd0316-035	
22	『家の光』第4巻第11号(1928年11月)	産業組合中央会	22.0×14.8	「萬歳樂」	Gd0316-036	
23	『家の光』第4巻第12号(1928年12月)	産業組合中央会	22.0×14.8	「落葉」	Gd0316-037	
24	『家の光』第5巻第9号(1929年9月)	産業組合中央会	22.3×14.9		Gd0316-038	→b.10-3

no.	雑誌名、巻号(発行年月)	出版者	寸法 (cm)	備考	作品番号	図版番号
25	『家の光』第6巻第1号(1930年1月)	産業組合中央会	22.0×14.8		Gd0316-039	
26	『家の光』第6巻第2号(1930年2月)	産業組合中央会	22.3×14.9		Gd0316-040	→b.10-4
27	『家の光』第6巻第4号(1930年3月)	産業組合中央会	22.0×14.8	「籬」	Gd0316-041	
28	『家の光』第6巻第5号(1930年4月)	産業組合中央会	22.3×14.9		Gd0316-042	→b.10-5
29	『家の光』第6巻第6号(1930年5月)	産業組合中央会	22.0×14.8		Gd0316-043	
30	『家の光』第6巻第7号(1930年6月)	産業組合中央会	22.0×14.8	「虞美人草」	Gd0316-044	
31	『家の光』第6巻第8号(1930年7月)	産業組合中央会	22.0×14.8	「石竹」	Gd0316-045	
32	『家の光』第6巻第10号(1930年9月)	産業組合中央会	22.0×14.8	「ヴェニスの夕」	Gd0316-046	
33	『家の光』第6巻第11号(1930年10月)	産業組合中央会	22.3×14.9		Gd0316-047	→b.10-6
34	『家の光』第6巻第12号(1930年11月)	産業組合中央会	22.0×14.8		Gd0316-048	
35	『家の光』第6巻第13号(1930年12月)	産業組合中央会	22.0×14.8	「籬」	Gd0316-049	
36	『温泉』第11巻第5号(1940年5月)	日本温泉協会	22.1×14.8		Gd0316-051	
37	『温泉』第11巻第6号(1940年6月)	日本温泉協会	22.0×14.9		Gd0316-052	
38	『開拓者』第16巻第1号(1921年1月)	基督教青年会	22.1×15.0		Gd0316-053	→b.12
39	『科学』創刊号(1924年11月)	成海堂	25.6×18.6		Gd0316-054	→b.13-1
40	『科学』第2巻第5号(1925年5月)	成海堂	25.6×18.6		Gd0316-055	→b.13-2
41	『科学』第3巻第1号(1925年7月)	成海堂	25.6×18.6		Gd0316-056	
42	『科学知識』第11巻第1号(1931年1月)	科学知識普及会	25.8×18.6		Gd0316-057	
43	『科学知識』第11巻第3号(1931年3月)	科学知識普及会	25.8×18.6		Gd0316-058	
44	『科学知識』第11巻第4号(1931年4月)	科学知識普及会	25.8×18.6		Gd0316-059	
45	『科学知識』第11巻第5号(1931年5月)	科学知識普及会	25.8×18.6		Gd0316-060	
46	『科学知識』第11巻第7号(1931年7月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-061	→b.14-1
47	『科学知識』第11巻第8号(1931年8月)	科学知識普及会	25.8×18.6		Gd0316-062	
48	『科学知識』第11巻第9号(1931年9月)	科学知識普及会	27.0×20.0		Gd0316-063	
49	『科学知識』第11巻第10号(1931年10月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-064	→b.14-2
50	『科学知識』第12巻第1号(1932年1月)	科学知識普及会	26.0×19.5	「大地の組成」	Gd0316-065	
51	『科学知識』第12巻第2号(1932年2月)	科学知識普及会	27.5×19.7		Gd0316-066	
52	『科学知識』第12巻第3号(1932年3月)	科学知識普及会	26.0×19.7		Gd0316-067	
53	『科学知識』第12巻第4号(1932年4月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-068	
54	『科学知識』第12巻第5号(1932年5月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-069	
55	『科学知識』第12巻第6号(1932年6月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-070	→b.14-3
56	『科学知識』第12巻第8号(1932年8月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-071	→b.14-4
57	『科学知識』第12巻第9号(1932年9月)	科学知識普及会	26.0×19.5		Gd0316-072	
58	『科学知識』第12巻第12号(1932年12月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-073	→b.14-5
59	『科学知識』第13巻第1号(1932年1月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-074	→b.14-6
60	『科学知識』第13巻第2号(1933年2月)	科学知識普及会	26.0×19.5		Gd0316-075	
61	『科学知識』第13巻第4号(1933年4月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-076	

杉浦非水の雑誌表紙

no.	雑誌名、巻号(発行年月)	出版者	寸法 (cm)	備考	作品番号	図版番号
62	『科学知識』第13巻第5号(1933年5月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-077	
63	『科学知識』第13巻第6号(1933年6月)	科学知識普及会	26.0×19.5		Gd0316-078	
64	『科学知識』第13巻第7号(1933年7月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-079	
65	『科学知識』第13巻第8号(1933年8月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-080	
66	『科学知識』第13巻第9号(1933年9月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-081	
67	『科学知識』第13巻第10号(1933年10月)	科学知識普及会	27.5×20.5		Gd0316-082	
68	『科学知識』第13巻第12号(1933年12月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-083	
69	『科学知識』第15巻第1号(1935年1月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-084	
70	『科学知識』第15巻第2号(1935年2月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-085	→b.14-7
71	『科学知識』第15巻第3号(1935年3月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-086	
72	『科学知識』第15巻第4号(1935年4月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-087	
73	『科学知識』第15巻第5号(1935年5月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-088	
74	『科学知識』第15巻第7号(1935年7月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-089	
75	『科学知識』第15巻第8号(1935年8月)	科学知識普及会	26.0×18.7		Gd0316-090	→b.14-8
76	『山樞(くちなし)』第3巻第1号(1940年1月)	淡々亭	21.6×15.0		Gd0316-091	
77	『山樞(くちなし)』第5巻第2号(1942年2月)	淡々亭	21.0×14.8		Gd0316-092	
78	『山樞(くちなし)』第6巻第2号(1943年2月)	淡々亭	21.0×15.0	完本	Gd0316-093	
79	『経済情勢』第292号(1954年1月)	三菱経済研究所	25.6×18.1		Gd0316-095	
80	『劇と詩』第7号(1910年10月)	劇と誌社	22.3×15.1		Gd0316-096	→b.16
81	『現代』第4巻第5号(1913年5月)	現代社	26.0×18.5		Gd0316-097	
82	『現代』第2巻第9号(1921年9月)	大日本雄弁会	22.0×15.1		Gd0316-098	
83	『現代』第3巻第2号(1922年2月)	大日本雄弁会	22.0×15.1		Gd0316-099	
84	『現代』第3巻第4号(1922年4月)	大日本雄弁会	21.9×15.1		Gd0316-100	→b.17-1
85	『現代』第3巻第7号(1922年7月)	大日本雄弁会	22.0×15.1		Gd0316-101	
86	『現代』第3巻第8号(1922年8月)	大日本雄弁会	22.0×15.1		Gd0316-102	
87	『現代』第3巻第9号(1922年9月)	大日本雄弁会	21.9×15.1		Gd0316-103	→b.17-2
88	『現代』第3巻第11号(1922年11月)	大日本雄弁会	22.0×15.1		Gd0316-104	
89	『現代』第3巻第12号(1922年12月)	大日本雄弁会	21.7×14.8		Gd0316-105	
90	『現代』第4巻第1号(1923年1月)	大日本雄弁会	21.9×15.1		Gd0316-106	→b.17-3
91	『現代』第4巻第8号(1923年8月)	大日本雄弁会	22.0×14.7		Gd0316-107	
92	『現代』第6巻第8号(1925年8月)	大日本雄弁会講談社	22.0×14.7		Gd0316-108	
93	『現代』第7巻第4号(1926年4月)	大日本雄弁会講談社	22.3×14.8		Gd0316-109	
94	『現代』第8巻第4号(1927年4月)	大日本雄弁会講談社	22.0×14.7		Gd0316-110	
95	『現代』第8巻第10号(1927年10月)	大日本雄弁会講談社	21.9×15.1		Gd0316-111	→b.17-4
96	『現代』第9巻第3号(1928年3月)	大日本雄弁会講談社	22.0×14.7		Gd0316-112	
97	『現代』第9巻第4号(1928年4月)	大日本雄弁会講談社	21.9×15.1		Gd0316-113	→b.17-5
98	『現代』第9巻第5号(1928年5月)	大日本雄弁会講談社	22.0×15.0		Gd0316-114	

no.	雑誌名、巻号(発行年月)	出版者	寸法 (cm)	備考	作品番号	図版番号
99	『現代』第9巻第6号(1928年6月)	大日本雄弁会講談社	22.0×15.0		Gd0316-115	
100	『現代』第14巻第7号(1933年7月)	大日本雄弁会講談社	22.1×14.8		Gd0316-116	
101	『現代』第18巻第2号(1937年2月)	大日本雄弁会講談社	22.1×14.8		Gd0316-117	
102	『現代』第18巻第3号(1937年3月)	大日本雄弁会講談社	21.9×15.1		Gd0316-118	→b.17-6
103	『現代』第18巻第4号(1937年4月)	大日本雄弁会講談社	22.1×14.8		Gd0316-119	
104	『現代之圖案工藝』第8巻第3号(1922年3月)	現代之図案工芸社	25.9×18.7		Gd0316-120	→b.18-1
105	『現代之圖案工藝』第8巻第7号(1922年7月)	現代之図案工芸社	26.0×18.6		Gd0316-121	→b.18-2
106	『建築畫報』第6巻第7号(1915年7月)	建築畫報社	26.0×18.7		Gd0316-122	→b.19
107	『黑白』第1巻第1号(1917年3月)	黑白発行所	22.1×14.8		Gd0316-123	→b.20
109	『三十六年』第1号[1902年5月]	六々社	22.8×15.3	校正刷か?	Gd0316-125	→b.22-2
108	『三十六年』第5号[1902年9月]	六々社	22.8×15.3	校正刷か?	Gd0316-124	→b.22-1
110	『私學振興』第1巻第3号(1952年11月)	私立学校振興会	21.0×15.0		Gd0316-128	
111	『私學振興』第2巻第1号(1953年1月)	私立学校振興会	21.0×15.0		Gd0316-126	
112	『私學振興』第2巻第2号(1953年3月)	私立学校振興会	21.0×15.0		Gd0316-127	
113	『私學振興』第3巻第1号(1954年1月)	私立学校振興会	21.0×15.0		Gd0316-129	
114	『私學振興』第3巻第6号(1954年12月)	私立学校振興会	21.0×15.0		Gd0316-130	
115	『私學振興』第4巻第2号(1955年3月)	私立学校振興会	21.0×15.0		Gd0316-131	
116	『自然』第5巻第3号(1926年6月)	自然詩社	22.2×15.1	裏表紙あり	Gd0316-132	
117	『實業界』第33巻第4号(1926年10月)	実業界社	26.1×18.0		Gd0316-133	→b.23
118	『實業界』第34巻第1号(1927年1月)	実業界社	26.0×18.8		Gd0316-134	
119	『實業界』第35巻第4号(1927年10月)	実業界社	26.0×18.8		Gd0316-135	
120	『實業界』第44巻第1号(1932年1月)	実業界社	25.8×19.4		Gd0316-136	
121	『實業俱樂部』第1巻第8号(1911年7月)	博文館	22.4×15.0		Gd0316-137	→b.24-1
122	『實業俱樂部』第1巻第11号(1911年10月)	博文館	22.4×15.0		Gd0316-138	→b.24-2
123	『秀才文壇』第17年第4号(1917年4月)	文光堂	22.2×14.6		Gd0316-139	→b.25
124	『主婦俱樂部』第2巻第5号(1924年5月)		21.8×14.7		Gd0316-140	→b.26
125	『趣味之友』第1巻第2号(1916年2月)	趣味之友社	22.5×15.5		Gd0316-141	
126	『趣味之友』第3巻第13号(1917年1月)	趣味之友社	22.5×15.8		Gd0316-142	
127	『女子文壇』第8年第1号(1912年1月)	女子文壇社	22.1×14.8		Gd0316-144	→b.27-1
128	『女子文壇』第8年第5号(1912年5月)	女子文壇社	22.1×14.8		Gd0316-145	→b.27-2
129	『處女』第10年第1号(1914年1月)	女子文壇社	22.0×14.8	『女子文壇』改題	Gd0316-146	→b.28
130	『新家庭』第7巻第6号(1922年6月)	玄文社	26.0×18.7		Gd0316-147	
131	『新家庭』第7巻第12号(1922年12月)	玄文社	25.8×18.4		Gd0316-148	
132	『新家庭』第8巻第9号(1923年9月)	玄文社	26.2×18.8	「ギゼーの金字塔」	Gd0316-149	
133	『新刊月報』昭和3年1月号(1928年1月)	東京出版協会	18.7×13.0		Gd0316-150	→b.29-1
134	『新刊月報』昭和3年2月号(1928年2月)	東京出版協会	18.7×13.0		Gd0316-151	→b.29-2
135	『新刊月報』昭和3年3月号(1928年3月)	東京出版協会	18.7×12.9		Gd0316-152	

杉浦非水の雑誌表紙

no.	雑誌名、巻号(発行年月)	出版者	寸法(cm)	備考	作品番号	図版番号
136	『新刊月報』昭和3年4月号(1928年4月)	東京出版協会	18.5×12.7		Gd0316-153	
137	『新刊月報』昭和3年5月号(1928年5月)	東京出版協会	18.6×12.7		Gd0316-154	
138	『新刊月報』昭和3年6月号(1928年6月)	東京出版協会	18.7×13.0		Gd0316-155	→b.29-3
139	『新刊月報』昭和3年8月号(1928年8月)	東京出版協会	18.7×13.0		Gd0316-156	→b.29-4
140	『新刊月報』昭和3年9月号(1928年9月)	東京出版協会	18.7×13.0		Gd0316-157	→b.29-5
141	『新刊月報』昭和3年10月号(1928年10月)	東京出版協会	18.7×13.2		Gd0316-158	
142	『新刊月報』昭和3年11月号(1928年11月)	東京出版協会	18.4×13.0		Gd0316-159	
143	『新刊月報』昭和3年12月号(1928年12月)	東京出版協会	18.7×13.0		Gd0316-160	→b.29-6
144	『新刊月報』昭和4年9月号(1929年9月)	東京出版協会	18.7×13.0		Gd0316-248	
145	『新刊月報』昭和4年10月号(1929年10月)	東京出版協会	18.7×13.0		Gd0316-161	→b.29-7
146	『新刊月報』昭和4年12月号(1929年12月)	東京出版協会	18.7×13.0		Gd0316-162	→b.29-8
147	『新刊月報』昭和5年2月号(1930年2月)	東京出版協会	18.7×13.0		Gd0316-164	→b.29-9
148	『新刊月報』昭和5年4月号(1930年4月)	東京出版協会	18.6×13.0		Gd0316-165	
149	『新刊月報』昭和5年5月号(1930年5月)	東京出版協会	18.6×12.8		Gd0316-166	
150	『新刊月報』昭和5年6月号(1930年6月)	東京出版協会	18.8×12.8		Gd0316-167	
151	『新刊月報』昭和5年7月号(1930年7月)	東京出版協会	18.7×12.8		Gd0316-168	
152	『新刊月報』昭和5年8月号(1930年8月)	東京出版協会	18.7×12.7		Gd0316-169	
153	『新刊月報』昭和5年9月号(1930年9月)	東京出版協会	18.7×12.8		Gd0316-170	
154	『新刊月報』昭和5年10月号(1930年10月)	東京出版協会	18.7×13.0		Gd0316-171	
155	『新刊月報』昭和5年11月号(1930年11月)	東京出版協会	18.7×13.0		Gd0316-172	
156	『新刊月報』昭和5年12月号(1930年12月)	東京出版協会	18.8×13.0	第15巻第6号	Gd0316-173	
157	『新趣味』第17巻第2号(1922年2月)	博文館	22.3×15.1		Gd0316-175	
158	『新女界』第10巻第3号(1918年3月)	新人社	21.9×15.3		Gd0316-176	→b.30-1
159	『新女界』第10巻第6号(1918年6月)	新人社	22.0×15.3		Gd0316-177	→b.30-1
160	『新人』第211号(1918年2月)	新人社	22.3×14.8		Gd0316-178	
161	『圖画と手工』第153号(1932年1月)	錦巷会	26.2×19.0		Gd0316-179	→b.31-1
162	『圖画と手工』第165号(1933年1月)	錦巷会	26.3×19.0		Gd0316-180	
163	『圖画と手工』第183号(1934年7月)	錦巷会	26.2×19.0		Gd0316-181	→b.31-2
164	『世帯』第1巻第2号(1922年4月)	世帯発行所	22.2×15.2		Gd0316-182	
165	『世帯』第1巻第3号(1922年5月)	世帯発行所	22.2×15.2		Gd0316-183	
166	『世帯』第1巻第4号(1922年6月)	世帯発行所	22.0×15.2		Gd0316-184	
167	『世帯』第1巻第6号(1922年8月)	世帯発行所	22.2×15.0		Gd0316-185	
168	『専賣』第293号(1937年1月)	専売協会	22.3×15.5		Gd0316-186	
169	『専賣』第297号(1937年5月)	専売協会	22.2×15.5		Gd0316-187	
170	『たかね』第26号	たかね婦人会	22.3×15.2	(1910年代)	Gd0316-189	→b.32
171	『短歌至上主義』第3巻第2号(1935年2月)	藤浪会	22.3×15.2		Gd0316-190	→b.33-1
172	『短歌至上主義』第3巻第3号(1935年3月)	藤浪会	21.8×15.1		Gd0316-191	

no.	雑誌名、巻号(発行年月)	出版者	寸法 (cm)	備考	作品番号	図版番号
173	『短歌至上主義』第4巻第9号(1936年9月)	藤浪会	22.3×15.2		Gd0316-192	→b.33-2
174	『短歌至上主義』第9巻第8号(1941年8月)	藤浪会	20.6×14.8		Gd0316-193	
175	『短歌至上主義』第9巻第10号(1941年10月)	藤浪会	22.3×15.2		Gd0316-194	→b.33-3
176	『短歌至上主義』第9巻第12号(1941年12月)	藤浪会	21.2×15.1		Gd0316-195	
177	『短歌至上主義』第10巻第2号(1942年2月)	藤浪会	21.0×15.0		Gd0316-196	
178	『短歌至上主義』第10巻第12号(1942年12月)	藤浪会	22.3×15.2	原画あり	Gd0316-197	→b.33-4
179	『短歌至上主義』第11巻第4号(1943年4月)	藤浪会	22.3×15.2		Gd0316-198	→b.33-5
180	『中學世界』第9巻第6号	博文館	22.3×15.0	1906年	Gd0316-202	→b.34-1
181	『中學世界』第15巻第7号(1912年6月)	博文館	22.1×14.8		Gd0316-203	→b.35-2
182	『ツーリスト』第13号(1915年6月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.5×14.9	英	Gd0316-208	→b.35-1
183	『ツーリスト』第25号(1917年5月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.6×15.0	和/英	Gd0316-209	
184	『ツーリスト』第27号(1917年9月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.6×15.5	和/英	Gd0316-210	
185	『ツーリスト』第6年第5号	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.5×14.9	和、1918年	Gd0316-211	→b.35-2
186	『ツーリスト』第7年第4号	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.0×14.9	和、1919年	Gd0316-212	
187	『ツーリスト』第8年第5号	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.5×14.9	和、1920年	Gd0316-213	→b.35-3
188	『ツーリスト』第9年第2号(1921年3月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.5×14.9	英	Gd0316-214	→b.35-4
189	『ツーリスト』第11年第2号(1923年3月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.4×14.8	英	Gd0316-215	
190	『ツーリスト』第13年第6号(1925年11月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.3×15.0	英	Gd0316-216	
191	『ツーリスト』第16年第1号(1928年1月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.2×15.1	和/英	Gd0316-217	→b.35-5(和)
192	『ツーリスト』第17年第12号(1929年12月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.1×14.9	英	Gd0316-218	
193	『ツーリスト』第18年第10号(1930年10月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.2×14.8	和/英	Gd0316-219	
194	『ツーリスト』第19年第1号(1931年1月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.2×15.0	和/英	Gd0316-220	
195	『ツーリスト』第19年第3号(1931年3月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.3×14.8	和/英	Gd0316-221	
196	『ツーリスト』第19年第4号(1931年4月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.1×14.8	和	Gd0316-222	→b.35-6
197	『ツーリスト』第19年第5号(1931年5月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.1×14.9	和/英	Gd0316-223	
198	『ツーリスト』第19年第9号(1931年9月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.3×14.8	和/英	Gd0316-224	
199	『ツーリスト』第20年第4号(1932年4月)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー	22.6×14.8	和/英	Gd0316-225	
200	『東京』第1巻第4号(1924年12月)	実業之日本社	23.0×16.3		Gd0316-247	→b.36
201	『日本印刷界』第58号(1914年8月)	日本印刷界社	25.6×18.1		Gd0316-252	→b.37
202	『日本印刷界』第77巻(1916年3月)	日本印刷界社	25.6×18.6		Gd0316-253	
203	『日本教育』第1巻第2号(1922年7月)	東京法制時報社	22.2×15.2		Gd0316-254	
204	『日本教育』第1巻第8号(1922年8月)	東京法制時報社	22.2×15.1		Gd0316-255	
205	『日本教育』第1巻第9号(1922年9月)	東京法制時報社	22.3×15.2		Gd0316-256	
206	『ピコロ』第1巻第1号(1934年7月)		30.4×22.4		Gd0316-260	
207	『美容』第3号		25.9×19.0		Gd0316-262	→b.38
208	『婦人倶楽部』第2巻第5号(1921年5月)	大日本雄弁会	21.8×14.8		Gd0316-263	→b.39-1
209	『婦人倶楽部』第2巻第8号(1921年8月)	大日本雄弁会	22.0×15.1		Gd0316-264	→b.39-2

杉浦非水の雑誌表紙

no.	雑誌名、巻号(発行年月)	出版者	寸法 (cm)	備考	作品番号	図版番号
210	『婦人倶楽部』第3巻第5号(1922年5月)	大日本雄弁会	21.8×14.8		Gd0316-265	→b.39-3
211	『婦人倶楽部』第3巻第6号(1922年6月)	大日本雄弁会	21.8×14.8		Gd0316-266	→b.39-4
212	『婦人倶楽部』第3巻第8号(1922年8月)	大日本雄弁会	21.8×14.8		Gd0316-267	→b.39-5
213	『婦人倶楽部』第3巻第10号(1922年10月)	大日本雄弁会	22.1×14.8		Gd0316-268	
214	『婦人倶楽部』第4巻第2号(1923年2月)	大日本雄弁会	21.8×14.8		Gd0316-269	→b.39-6
215	『婦人倶楽部』第4巻第4号(1923年4月)	大日本雄弁会	21.8×14.8		Gd0316-270	→b.39-7
216	『婦人倶楽部』第4巻第6号(1923年4月)	大日本雄弁会	21.8×14.8		Gd0316-271	→b.39-8
217	『婦人倶楽部』第5巻第4号(1924年4月)	大日本雄弁会	21.8×14.8		Gd0316-272	→b.39-9
218	『婦人倶楽部』第5巻第5号(1924年5月)	大日本雄弁会	22.2×14.9		Gd0316-273	
219	『文章世界』第8巻第6号(1913年5月)	博文館	22.3×14.6		Gd0316-275	→b.40
220	『むれ星』創刊号(1928年11月)	むれ星会	22.2×14.8		Gd0316-395	
221	『むれ星』12月号(1928年12月)	むれ星会	22.2×14.8		Gd0316-396	
222	『むれ星』第2巻第2号(1929年2月)	むれ星会	22.1×14.8		Gd0316-397	
223	『むれ星』第3巻第1号(1930年1月)	むれ星会	22.2×14.9		Gd0316-398	
224	『むれ星』第3巻第2号(1930年2月)	むれ星会	22.2×14.9		Gd0316-399	
225	『むれ星』第3巻第6号(1930年6月)	むれ星会	22.1×15.0		Gd0316-400	
226	『むれ星』第3巻第7号(1930年7月)	むれ星会	22.1×15.0		Gd0316-401	
227	『むれ星』第3巻第8号(1930年8月)	むれ星会	22.2×15.0		Gd0316-402	
228	『むれ星』第3巻第9号(1930年9月)	むれ星会	22.2×15.0		Gd0316-403	→b.43-1
229	『むれ星』第4巻第2号(1931年2月)	むれ星会	22.2×15.0		Gd0316-404	
230	『むれ星』第4巻第4号(1931年4月)	むれ星会	22.1×14.9		Gd0316-405	
231	『むれ星』第4巻第6号(1931年6月)	むれ星会	22.0×15.0		Gd0316-406	
232	『むれ星』第4巻第11号(1931年11月)	むれ星会	22.1×15.1		Gd0316-407	
233	『むれ星』第4巻第12号(1931年12月)	むれ星会	22.1×15.0		Gd0316-408	
234	『むれ星』第5巻第2号(1932年2月)	むれ星会	22.1×14.8		Gd0316-409	
235	『むれ星』第5巻第5号(1932年5月)	むれ星会	22.3×14.8		Gd0316-410	
236	『むれ星』第5巻第6号(1932年6月)	むれ星会	22.0×15.0		Gd0316-411	
237	『むれ星』第5巻第10号(1932年10月)	むれ星会	22.1×15.1		Gd0316-412	
238	『むれ星』第5巻第11号(1932年11月)	むれ星会	22.1×14.8		Gd0316-413	
239	『むれ星』第6巻第1号(1933年1月)	むれ星会	22.2×15.1		Gd0316-414	
240	『むれ星』第6巻第2号(1933年2月)	むれ星会	22.1×15.2		Gd0316-415	
241	『むれ星』第6巻第3号(1933年3月)	むれ星会	22.1×15.1		Gd0316-416	
242	『むれ星』第6巻第5号(1933年5月)	むれ星会	22.2×15.1		Gd0316-417	
243	『むれ星』第6巻第6号(1933年6月)	むれ星会	22.2×15.2		Gd0316-418	
244	『むれ星』第6巻第7号(1933年7月)	むれ星会	22.1×15.1		Gd0316-419	
245	『むれ星』第6巻第8号(1933年8月)	むれ星会	22.2×15.0		Gd0316-420	→b.43-2
246	『むれ星』第7巻第1号(1934年1月)	むれ星会	22.1×15.0		Gd0316-421	



no.	雑誌名、巻号(発行年月)	出版者	寸法 (cm)	備考	作品番号	図版番号
247	『むれ星』第7巻第3号(1934年3月)	むれ星会	22.3×15.2		Gd0316-422	
248	『むれ星』第7巻第4号(1934年4月)	むれ星会	22.1×15.2		Gd0316-423	
249	『むれ星』第7巻第5号(1934年5月)	むれ星会	22.0×15.0		Gd0316-424	
250	『むれ星』第7巻第6号(1934年6月)	むれ星会	22.1×15.2		Gd0316-425	
251	『むれ星』第7巻第8号(1934年8月)	むれ星会	22.2×15.2		Gd0316-426	
252	『むれ星』第7巻第9号(1934年9月)	むれ星会	22.2×15.0		Gd0316-427	→b.43-3
253	『むれ星』第7巻第11号(1934年11月)	むれ星会	22.2×15.2		Gd0316-428	
254	『むれ星』第7巻第12号(1934年12月)	むれ星会	22.2×15.2		Gd0316-429	
255	『むれ星』第8巻第7号(1935年7月)	むれ星会	22.2×15.1		Gd0316-430	
256	『むれ星』第8巻第12号(1935年12月)	むれ星会	22.1×15.2		Gd0316-431	
257	『むれ星』第9巻新年号(1936年1月)	むれ星会	22.1×15.2	「海上雲遠」	Gd0316-432	
258	『むれ星』第9巻第2号(1936年2月)	むれ星会	22.1×15.0		Gd0316-433	
259	『むれ星』第9巻第10号(1936年10月)	むれ星会	22.2×15.2	「百日草」	Gd0316-434	
260	『むれ星』第9巻第11号(1936年11月)	むれ星会	22.1×15.1	「百日草」	Gd0316-435	
261	『むれ星』第9巻第12号(1936年11月)	むれ星会	22.1×15.1	「百日草」	Gd0316-436	
262	『むれ星』第10巻第1号(1937年1月)	むれ星会	22.2×15.2		Gd0316-437	
263	『むれ星』第10巻第5号(1937年5月)	むれ星会	22.2×15.2		Gd0316-438	
264	『むれ星』第10巻第6号(1937年6月)	むれ星会	22.2×15.2	「昼の月」	Gd0316-439	
265	『むれ星』第10巻第7号(1937年7月)	むれ星会	22.2×15.1	「夏の浜」	Gd0316-440	
266	『むれ星』第11巻第1号(1938年1月)	むれ星会	22.2×15.1		Gd0316-441	
267	『むれ星』第11巻第2号(1938年2月)	むれ星会	22.1×15.1		Gd0316-442	
268	『むれ星』第11巻第3号(1938年3月)	むれ星会	22.2×15.2		Gd0316-443	
269	『むれ星』第11巻第4号(1938年4月)	むれ星会	22.1×15.1	「さくら」	Gd0316-444	
270	『むれ星』第11巻第5号(1938年5月)	むれ星会	22.2×15.1	「さくら」	Gd0316-445	
271	『むれ星』第11巻第7号(1938年7月)	むれ星会	22.1×15.1	「夏山」	Gd0316-446	
272	『むれ星』第11巻第8号(1938年8月)	むれ星会	22.1×15.1		Gd0316-447	
273	『むれ星』第11巻第10号(1938年10月)	むれ星会	22.1×15.1	「秋の声」	Gd0316-448	
274	『むれ星』第11巻第11号(1938年11月)	むれ星会	22.1×15.1		Gd0316-449	
275	『むれ星』第12巻第4号(1939年4月)	むれ星会	22.1×15.1		Gd0316-450	
276	『むれ星』第12巻第10号(1939年12月)	むれ星会	22.2×15.0		Gd0316-451	→b.43-4
277	『むれ星』第12巻第11号(1939年11月)	むれ星会	22.1×15.1	「すがる野」	Gd0316-452	
278	『むれ星』第13巻第1号(1940年1月)	むれ星会	22.2×15.1	「輝く初日」	Gd0316-453	
279	『むれ星』第13巻第7号(1940年7月)	むれ星会	22.1×15.1	「陽は輝く」	Gd0316-454	
280	『むれ星』第13巻第8号(1940年8月)	むれ星会	22.2×15.1	「陽に躍る」	Gd0316-455	
281	『むれ星』第13巻第9号(1940年9月)	むれ星会	22.2×15.0		Gd0316-456	→b.43-5
282	『むれ星』第13巻第11号(1940年11月)	むれ星会	22.2×15.0		Gd0316-457	→b.43-6
283	『雄辯』第13巻第8号(1922年8月)	大日本雄弁会	22.0×14.8		Gd0316-458	→b.44-1

杉浦非水の雑誌表紙

no.	雑誌名、巻号(発行年月)	出版者	寸法 (cm)	備考	作品番号	図版番号
284	『雄辯』第13巻第10号(1922年10月)	大日本雄弁会	22.0×14.8		Gd0316-459	→b.44-2
285	『雄辯』第14巻第2号(1923年2月)	大日本雄弁会	22.0×14.8		Gd0316-460	→b.44-3
286	『雄辯』第14巻第4号(1923年4月)	大日本雄弁会	22.0×14.8		Gd0316-461	→b.44-4
287	『雄辯』第14巻第5号(1923年5月)	大日本雄弁会	21.9×14.9		Gd0316-462	
288	『雄辯』第14巻第7号(1923年7月)	大日本雄弁会	22.0×14.8		Gd0316-463	→b.44-5
289	『雄辯』第14巻第11号(1923年11月)	大日本雄弁会	22.0×14.8		Gd0316-464	→b.44-6
290	『雄辯』第15巻第11号(1924年11月)	大日本雄弁会	22.0×14.8		Gd0316-465	→b.44-7
291	『雄辯』第15巻第12号(1924年12月)	大日本雄弁会	22.0×14.8		Gd0316-466	→b.44-8
292	『雄辯』第16巻第8号(1925年8月)	大日本雄弁会講談社	22.0×14.8		Gd0316-501	→b.44-9
293	『養鶏』第1巻第1号(1939年10月)	養鶏組合中央会	22.0×14.8		Gd0316-467	
294	『ラグビー』第1巻第3号(1930年12月)	日本ラグビー蹴球協会	26.0×18.6		Gd0316-468	→b.45
295	『リーガルタイムス』第1巻第2号(1909年3月)		22.0×15.2		Gd0316-469	→b.46